

8. 初期の土と根

【無肥料で田植えする事】

苗の根は通常、空気にさらされて生きている根ですから、湛水下では死んで行き、田植え後に新しく出た新根が働くようになって活着し、稲の生長が進みます。元肥を施した田圃では、肥料が必要以上に溶けていて、根は伸びなくても吸肥できますから、根が少なく、短くなってしまいます。元肥を施さずに田植えした稲は、新根が多く出て、肥料を探して長く伸びます。根張りがまったく違うことは明らかなので、田植え後には葉ではなく、是非とも実際に根を見比べてください。原則として元肥を施さずに田植えをします。後半に穂を作るために、前半は根をしっかりと作るのが米作りの基本です。

田植え 7日後の根の比較

▼通常栽培で、元肥を施用した田圃



新根は4本ほどしか出ていない。しかも根が伸びず、途中で止まっている。

▼元肥を施用していない田圃



すでに新根が十数本出ている。根は長く伸びている。

【田植え後の水管理】

田植え後、活着期5～7日間は、苗が水没しない程度にやや深水(5cmくらい)とします。初期除草剤を使う場合はその効力期間を過ぎた後に、やや浅水(2～4cm深)として分ゲツを進めます。ただ、浅水で水温が上がり過ぎる場合は障害が出やすいので、水をかけ流すなどの注意をしてください。

【初期の土…ガス沸きの問題】

水を張った田圃に泡が多く出て、悪臭・腐敗臭のするガスが沸いている場合があります。

空気(酸素)の少ない還元下の土中で腐敗性の菌(絶対的嫌気性菌)が増殖し、有害物質と呼吸障害によって稲の根を傷め、葉先が枯れたり丸く縮まったりして、酷い場合は葉が赤く枯れます。

有機物・堆肥などが多すぎて未分解だったり、地力作りの日数が足りなかったり、急激な温度上昇などの場合に起りやすく、対処方法は一度水を落とし、土の表面に空気(酸素)を当ててガスを抜いてから、また水を入れます。特に酷い場合は**ラクトバチルス200g**(~400g)を投入して、ガスを無くし、腐敗性の菌を抑えます。



ガス沸きとは、湛水して酸素が欠乏した土の中に、腐敗性の菌(絶対的嫌気性菌)が増殖した状態です。この菌は、人間が下痢をした時に腸内で増殖しているのと同種の菌で、酸素に弱いのです。

ガス沸きが無いように、あらかじめ 秋~春のうちに、**ラクトバチルス**を使った土作りをしておきましょう。